

公益財団法人日本少年野球連盟主催大会規定

平成 27 年 2 月 22 日改正

平成 28 年 12 月 11 日改正

平成 29 年 4 月 28 日改正

令和 3 年 10 月 2 日改正

令和 3 年 12 月 12 日改正

令和 5 年 12 月 10 日改正

令和 6 年 12 月 8 日改正

1. チームの登録選手 中学生の部は 11 名以上 25 名以内（ベンチ入りは 20 名以内）、小学生の部は 9 名以上 20 名以内とする。
2. 出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手 20 名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、スコアラーのみベンチに入ることが出来る。
但し、チーム責任者、監督、コーチ、選手は登録証を携帯すること。
携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、
チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間にあった場合は、
審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、
審査の上、その時点でベンチ入りできる。
なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。
チーム責任者が不在の場合は試合できない。
5. 組み合わせの若番号が 1 塁側のベンチ、後番号が 3 塁側のベンチに入る。
6. 監督（背番号 60）、コーチ（背番号 50）は選手と同じユニフォームを着用すること。
7. 試合開始時刻 60 分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表 5 部、
投球回数記録副表 3 部および大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に
提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、
球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
10. 試合方式など
 - ・中学生の部

- (1) 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。
試合成立後は試合開始から2時間（決勝戦は2時間）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。
また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01 (4) により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
- (2) 4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回表終了時）10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
- (3) 7回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。試合開始から2時間を超えては新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）

・小学生の部

- (1) 各試合は6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分（決勝戦は1時間40分）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01 (4) により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
- (2) 4回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
- (3) 6回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。試合開始から1時間40分を超えては新しいイニングに入らずタイブレーク方式を実施する。
（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）

11. ・中学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は、以下のとおり制限する。

- (1) 1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし4連投（連続する4日間）は禁止する。
- (2) 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。

- (3) (1)～(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
- (4) 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
- (5) ボークは投球数としない。
- (6) 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。
- (7) 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

・小学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は以下のとおり制限する。

- (1) 1日最大70球とし、連続する2日間で105球とする。
3連投（連続する3日間）は禁止する。
- (2) 大会中は1日70球以内とし、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。
- (3) (1)～(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
- (4) ボークは投球数にしない。
- (5) 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

・共通事項

- (1) ダブルヘッダーの場合で、2試合に登板した時は連続2日間投球した事とする。
また、1試合のみ登板した場合は、1日の投球とする。
- (2) 小学生に於いては投手から捕手の制限は設けないが、指導者は十分考慮すること。
- (3) 日程の変更（地区大会を含む）等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」を次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛てに提出しなければならない。

12. (1)監督またはコーチの指示は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。

延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示を認める

(選手の怪我や交代などの指示は回数に入らない)

(2)守備側の投手に対する指示が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。

(3)内野手（捕手を含む）が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。

(4)監督、コーチが指示を与える時間は、審判員がタイムと宣告してから30秒以内とする。守備側がマウンドへ行く場合は駆け足で行くこと。

13. 1イニングで同一の投手に対して指示が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。

その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板す

ることはできない。ただし、新しいイニング入れば、再び投手として登板することができる。

14. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。

15. 監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドのところで行うこと。
(ベンチからは駆け足で)

16. 2 塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

17. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。
また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19. 小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチスボックス内でベースコーチを務めてもよい。この場合、必ず両耳付ヘルメットを着用すること。

20. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具【マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファウルカップ(一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く)】2組を備えること。

21. ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

22. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

23. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

24. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

25. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。

26. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

参考

野球規則 7.01 (4)

7.02 (a) によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したと

き、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

<タイプブレイク実施細則>

(1) 特別規則

- (イ) 中学生の部は7回あるいは試合開始から2時間を超えて、小学生の部は6回あるいは試合開始から1時間40分を超えて（いずれか早い方）、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる
- (ニ) この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・規定により出した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

- ・規定により出した3走者の出の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併打などは全て記録する